

共生・公正・創造



# ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合  
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号  
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290  
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治



## “テロリストに乗っ取られた”JR東日本の真実”

### 「マングローブ」ダイジェスト版 第4回

あの「週刊現代」連載記事が【マングローブ】という本になった。本紙は筆者（西岡研介氏）の了解を得て、『謎に包まれた非合法集団とJR東日本の抜き差しならぬ関係』をダイジェスト版として紹介することとした。

## 底なしの腐敗

JR東労組「会長」職に就いた松崎は、短期間に国内外の別荘を買い漁り、「一億円超」の資産を築いた。その松崎の財産の一つが、ハワイの高級コンドミニアムなのだ。当時『週刊文春』の記者だった私は、この「JR革マル派問題」の取材を始めた。この高級コンドミニアムを松崎に仲介した不動産業者は04年当時、匿名を条件に取材班にこう証言していた。

「最初に松崎さんにお会いしたのは98年頃でした。地元の旅行代理店に勤める知人の紹介でした。『ハワイ島内に別荘を探している方がいる』というのでお会いしたんですが、ずいぶん変わった雰囲気の方だなという印象はありました。...ただお金にはすごくきれいな方で、事務手数料などの請求をすると、松崎さんがふたつ返事で払ってくださいました。お金は毎回、東京の『目黒さつき会館』の担当の方、たしか女性の名前で、振り込んでくれました」この不動産業者は、取材を受けるまで、「目黒さつき会館」を「松崎さんの個人的な会社だと思っていた」という。不動産業者が続ける。

「ある日、どうしてそんなにお金があるんだろうと思い、尋ねてみたのです。すると、松崎さんに同行されていた息子の篤さんが『父は先見の明があって、お金を動かすのがすごく上手なんです。日本では講演をしたり、本を書いたりしているんで、かなりのお金が入ってくるんです。』と教えてくれました。篤さんや松崎さんの付き添いの方々からは『日本では多くの人々にたいへん尊敬されていて、偉い立場の人だ』と何度も聞かされたのですが、私にはただのオジサンにしか見えませんでした（笑）。松崎さんご本人にも『お金持ちのご子息なんですか』と聞いてみたのですが、『いいえ。私は貧乏人の息子で、1人でここまで築き上げた人間です』とお答えになっていました。またことあるごとに『日本には嫌気がさした。見切りをつけたし、未練もないから、ハワイに永住したい』とおっしゃっていました。余生をこちらでお過ごしになるつもりだったんだと思います」...

「米帝国主義打倒！」を叫ぶ、極左セクトの最高幹部が、アメリカ50番目の州に豪華別荘を二つも構えていたとは、もはやブラックユーモアとしか言いようがない。...かつては「鬼」と呼ばれた男はどうやら、このハワイ島でゴルフに明け暮れ、自宅の果樹園で木登りする孫を眺めながら余生を送る、という「夢の生活」を描いていたようだ。...しかし、残念ながら、ことは松崎の思うようには運ばなかった。...松崎は別荘を本拠地として会社を設立していた。ハワイでプロポリスを仕入れ、さつき企画がそれを買取る仕組みだ。結局、ハワイでの商売はうまくいかず、コナコーヒーの販売やコウモリの糞だか尿だかを加工した肥料を輸出する仕事にも手を出した。「労働運動家」とは思えない“逞しき商魂”だが、松崎は文春の取材班が訪れた8ヵ月後の05年3月、この別荘を4200万円で売却するのである。

【マングローブ（講談社）P.84～P.94】